

すてきなモニターガーデン

ガーデンデザイン研究家 中山 正範

ペチュニアは、花色の豊富さをはじめ、花の大きさや一重八重などのバリエーション、そして花つきのよさが人気を呼んで、初夏から秋の風を感じるころまで、花壇やコンテナガーデンになくてはならない存在となりました。

栽培に関しては、品種改良されていることもあります。園芸を愛する皆さんの技術が向上して、ボリュームいっぱいに咲かせておられるのには、感心するばかりです。

ペチュニアだけでも十分に美しいのですが、寄せ植えにしたり、ほかの植物を植え込んだ鉢とともに寄せ鉢をしたりして楽しんでみると、ペチュニアがより一層いきいきと、華やかに見えてくることでしょう。



中山 正範
(なかやま まさのり)

大阪教育大学教育学部美術学科専攻科を卒業。大阪府立園芸高等学校に就任後、花と緑のトータルなスペースデザインを研究。現在は、大阪府立池田北高等学校教諭。1990年の「国際花と緑の博覧会」政府苑（ペランダ園芸）や、大分香りの森博物館・香りのスロープなどのガーデンデザインのほか、個人住宅造園設計も多数。著書は『ガーデニング入門』『タキイ種苗』はじめてのガーデン作り（主婦の友社）ほか。

‘ドレスアップ「ライム」と「ブルーアイス」で作るすてきな和のディスプレイ

福島県 R・N様



‘ドレスアップ’の「ライム」と「ブルーアイス」が、和を意識した飾り方にぴったり調和しています。

木の切り株を利用した花台に載せた籐の籠や、鉄製の椅子型の花台…。バラかと見まごうような‘ドレスアップ’の「ライム」と「ブルーアイス」を、これくらい高さを出してディスプレイすれば、玄関にいやが上にも高級感が漂います。ここでは‘ドレスアップ’が丸く半球形にまとまるのではなく、自由に茎を伸ばして咲いているのが、和風の玄関によく似合っています。



コンテナは、できるだけ隠すように工夫をするとよいでしょう。

‘ドレスアップ「ライム」と「サーモン」でテラスを豪華に

長野県 H・H様



ゴージャスなドレスアップの「ライム」と「サーモン」に彩られたテラス（右）。見事に咲いたドレスアップ・サーモン（上）。

‘ドレスアップ’シリーズをボリュームいっぱい咲かせ、テラスをゴージャスに飾っておられます。コンテナの色をテラスのタイルの色と同じ色にされたこと、また、アプローチの階段の左右に「ライム」と「サーモン」を1鉢ずつシンメトリーに配されたことによって、全体をすっきり見せたのは正解でした。



小さなコンテナを1カ所にまとめると、ペチュニアがより目立ってくれるでしょう。また、ペチュニアにリーフプランツを組み合わせ、グレードアップを図ってみては。

ドレスアップ

主役にふさわしいゴージャスな存在感

‘ドレスアップ’「ライム」「ピンクアイス」の気品と優しさがあふれて

北海道 T・T様



‘ドレスアップ’の「ライム」や「ピンクアイス」が持つ豪華さ、気品高さを最大限に生かしておられます。

オステオスペルマムやデージーの白、ネメシア・カエルレアのピンクに囲まれて、八重咲きの‘ドレスアップ・ピンクアイス’が堂々と主役を演じています。ピンクと白を基調色に、花の形と大きさをバランスよく配したデザインの力量には感心しました。パールトーンの持つ優しさと気品が、人の目を引きつけています。



淡いブルーの花色は、限られたスペースですので、なくてもよいかもしれません。

‘ドレスアップ’「ブルーアイス」と「ライム」が重厚な門扉を華やかに演出

広島県 K・K様

重厚な門扉に、華やかなハンギングバスケットがとてもよく似合っています。八重咲きの‘ドレスアップ’シリーズは豪華さを演出するのにぴったりで、「ブルーアイス」と「ライム」の花色を飾られ、気品をも味方にされました。また葉物の利用も大変お上手で、門扉の色、素材も考えられての全体のコーディネートは、非常にグレードが高いですね。



存在感のあるドレスアップの「ブルーアイス」と「ライム」、可憐なエボック・パープルそれぞれの長をうまく用いたハンギング。



‘エボック・パープル’だけでもすっきり見せられますが、全体的に緑が多いので、‘エボック・ピュアホワイト’を加えられてはいいでしょう。

‘ドレスアップ・ラベンダー’が道行く人の目を楽しませて

愛知県 S・N様

外周に沿って植え込んだデルフィニウムと、美しいコントラストを見せる‘ドレスアップ・ラベンダー’。花台に載せて高さを出したことで、より豪華さが増えています。白～淡紫～紫の清楚な配色が初夏をさわやかに見せ、通る人の目を楽しませたことでしょう。



華やかに門前を彩る‘ドレスアップ・ラベンダー’と‘エボック・パープル’。



花台の両脇にペチュニアのコンテナを1鉢ずつ置いてボリュームを出し、花台が隠れるようにするとよいでしょう。その際のカラーコーディネートは、ラベンダーを中心にすれば、「ライラック」や「ライトブルー」を。

‘サルサ・ライトブルー’を使った夏の暑さを忘れるボーダー

千葉県 R・M様



‘サルサ’の「ライトブルー」と「クリームイエロー」を交互に用いた植栽が目には鮮やか!

‘サルサ・ライトブルー’の濃淡によるグラデーションと「クリームイエロー」との清涼感あふれる配色が、夏の暑さを忘れさせてくれます。また、レペテーション（繰り返し）の植栽がリズム感を生んで、見事なボーダーガーデンになっています。

中山先生の
すてき
処方箋

「ライトブルー」の株を「クリームイエロー」の株数よりも多めに植えるとさらによくなるでしょう。そして、後方にはブルー系のサルビア・ウリギノースやサルビア・ガラニティカなど高さのある植物を加えると変化が出ます。



サルサ

花つき抜群で、寄せ植えやグランドカバーに最適

‘サルサ・ピンクmoon’のかわいい表情を生かした ガーデンスペース

埼玉県 M・A様



和の雰囲気にも意外とよく合う サルサ・ピンクmoon。



‘サルサ・ピンクmoon’の覆輪（白にピンク）のかわいらしい表情が生きたハンギングバスケット。濃茶の面格子や建具によく映えて、ひときわ目を引くガーデンスペースになっています。

中山先生の
すてき
処方箋

‘サルサ・ピンクmoon’をさらに魅力的に見せるために、銀葉のヘリクリサムやシロタエギクを加えてみてはいかがでしょうか。また、窓下のギボウシやリボンガラスは、大型のコンテナにまとめるか、デザインや色が同じコンテナに植え替えると、すっきりと見せることができます。

‘エポック」「パープル」「ピュアホワイト」 のコントラストが印象的

北海道 F・K様



‘エポック’シリーズの「パープル」と「ピュアホワイト」がほどよく混ざり合い、彩度のコントラストが生まれて、美しいバランスを見せています。また、中央のグラスがアクセントとなり、平凡さから一歩抜け出た、印象的なコンテナガーデンになりました。



グラス類で高さを出し、足元は ‘エポック’ の「パープル」と「ピュアホワイト」で美しく飾っておられます。(写真左)
黒いコンテナを用いることで、‘リトルホリデー’の「ピンク」と「ホワイト」の花色が映えています。(写真上)



切り戻し後の花つきがよくなかったようですが、コンテナを大きなものに替えられるとよかったかもしれません。またグラス類は、鉢のまま寄せ植えにすると根が広がらず、ほかの植物の邪魔をしませんよ。

エポック

小さな花は組み合わせ自由自在

‘エポック」「ローズ」と「パープル」 + 葉もので、落ち着いた雰囲気

東京都 K・N様

‘エポック’シリーズの「ローズ」と「パープル」が、レンガの壁面を背に、落ち着いた重厚な雰囲気を漂わせています。樽のコンテナに植えられた、ボリュームのあるペチュニアに、相性のよい斑入り^ふの葉ものが明るさを加えて、よく似合っています。また、後方の緑葉も、レンガの壁とペチュニアとの間を埋め、やわらかさを表現していて効果的です。



味わい深い雰囲気を演出している ‘エポック’ の「ローズ」と「パープル」。



「ローズ」と「パープル」の花色を引き立てるために、斑入り種の葉ものを増量するとよいでしょう。さらに、緑葉部分にペチュニアと開花期が同じ植物を選んでコーディネートを楽しんでみては?

‘エポック」「ピュアホワイト」や「パープル」 が奏でるハーモニー

東京都 K・K様

白い窓枠と椅子を背景にして、ともに豪華で優雅なイメージのペチュニアとデルフィニウムが見事に映えています。花色を紫、赤、白の共通の色にしたことや、半球形にまとまる草姿と、垂直に立ち上がる草姿によるコントラストが、美しい調和を生んで、一体感のあるすてきなガーデンスペースになりました。



‘エポック’ とデルフィニウムの開花期を合わせるの意外と難しいのですが、見事に同時期に咲き誇っています。



主役になる草花ばかりなので、脇役になる小花や葉ものを加えると、さらに広がりのある空間になるでしょう。またレイアウトにも一考を。